



# ふじ美が原

富士見中学校

特集：2学期終業式

## 二学期終業式

### 様々な充実感を胸に、二学期が終了しました。

一年間で一番長い学期であり、クラス、学年、全校でつくり上げる大きな行事があった二学期が終わりました。終業式では、各学年の生徒代表の意見発表、校長講話がありました。

「多くの宝を実現した二学期  
心を配れる自分を目指そう」

学校長 曾根原 好彦

ただいまは、一年生の長尾さんが、学級長として自主的に動いた姿の振り返りを、二年生の折井さんは、学級としての団結と三学期の抱負を、三年生の小田さんは、受験生として学習に打ち込む決意を発表してくださいました。

二学期には、たくさんの方々の行事がありました。ストーリー性に溢れた白鈴祭は、私の心に深く残りました。企画・運営をした役員の方々をはじめ、全校を引っ張った三年生の皆さん、そして、

創意あふれる発表をしてくれた一、二年生の皆さん、すべてに感謝です。

涙が溢れそうになった合唱祭。各クラスの合唱はもちろん、学年合唱、全校合唱も、感動で心が揺さぶられました。新人の部活動でも、たくさんの方々の賞状やトロフィー等が廊下に飾られています。素晴らしい結果を残されました。頑張りが光りました。

さて、生徒会でも話題にして下さっているように、富士見中にはたくさんの方々の宝があります。私が、朝、横断歩道に立って、皆さんの登校のサポートをしていると、歩いて登校してくる中学生は、大きな声の人もいれば、小さな声の人もいますが、皆さん挨拶をしてくれず。地域の方から、挨拶に関するお褒めの言葉を電話でいただいています。挨拶は、富士見中の宝であり、プライドです。

合唱祭後、今年度、審査をして下さった先生は、ずっと「富士見中すごい、富士見中すごい。負けていられない」とつぶやいていました。地域の方

から、合唱についてもお褒めの電話をいただいています。合唱は、富士見中の宝であり、プライドです。

無言で取り組む熱中清掃も、富士見中の宝であり、プライドです。縦割清掃前は、一年生の中には、取組の甘い人もいましたが、縦割清掃後は、手本となる先輩の姿に学んだのか、学校全体の清掃が引き締まりました。

このように、富士見中にはたくさんの方々の宝があります。一学期に「常に一流たるをめざせ」という話をしましたが、



この宝を実現している姿は、まさに一流です。今日は、二学期を終え、平成二十九年もあとわずかとなり、三十年を迎えるに当たり、皆さんに自分自身を振り返ってもらおう話をしたと思います。これは、富士見中の生徒として、一人一人が心掛けてほしく、富士見中の宝になればよいなという、私の願いです。それは、「心を配る」ということです。日本にある、お客さんの状況に合わせた最高の心配りを提供している場所、東京デイズニールンドの話をします。

ある日、若い夫婦が二人でデイズニールンドのレストランに入ってきました。夫婦は二人がけのカップル席に案内されると「お子様ランチ二つ」と注文しました。ところがデイズニールンドには「お子様ランチは九歳まで」というきまりがあるそうです。

キャストは丁寧に頭を下げて言いました。「お客様、大変申し訳ございません。お子様ランチは大人の方がお

召し上がりになるには量が少なすぎますので、お子様限定のメニューになっております」

それを聞いた女性は、がっくりと肩を落としました。キャストは、女性がとてもがっかりしたのを見て、これは何か特別な理由があるかも…と思いい切つて尋ねてみました。

「お子様ランチは、どなたがお召し上がりになりますか？」

女性は静かに話し始めました。「実は、私達二人には子どもがいたので、一歳のお誕生日を迎える前に、病気で亡くなったのです。生前、子どもの病気が治って元気になったら、いつか三人でデイズニールンドに行つて、お子様ランチを食べようね」と約束していたんです。なのに



結局、その約束を果たすことができなかったんです。今日は、子どもの一周忌なのですが、子どもの供養のために、その約束を果たそうと思つてデイズニールンドに来たんです」

キャストは二人に向かって深々と頭を下げると、「かしこまりました。お子様ランチお二つですね。それでは恐れ入りますが、お席を移動していただけますか」と言つて、二人掛けのカップル席からファミリー席に移動してもらいました。

そして、キャストは、二人の間に子供用のいすを準備すると、「お子様はどうぞこちらに」と、まるで子どもがいるかのように導きました。しばらくすると、お子様ランチを三つ持ってきて、子供用のいすの前に三つ目のお子様ランチを置いて言いました。「こちらには、デイズニールンドからのサービスです。ご家族でゆっくりお楽しみください」

二人はとても感激したそうです。そして後日、デイズニールンドにこんな

手紙が届いたそうです。「お子様ランチを食べながら涙が止まりませんでした。私たちはまるで娘が生きているかのように、家族の団らんを味わいました」

このご夫婦が、お子様ランチを言葉少なにゆっくりといただいたか、子どもを語りながらいただいたかは定かではありません。しかし、デイズニールンドのこの心配りに、心温め、我が子を供養しつつ、我が子に思いを馳せ、さらには、先だった我が子に恥じない生き方をしようと、愛する我が子に誓つたに違いないと思います。

夫婦の願いは、事情を知らない者にとつてはお子様ランチの注文…、表面的にはそうとしか映らないかもしれませんが、もしあの時、スタッフが「特別な理由があるかも…」とは思わずに、「そういう訳ですので他のメニューからお選びください」と丁寧に進めれば、この心温まるエピソードはこの世に誕生しませんでした。このスタ

ツフの心配りによって、この逸話が生まれました。

さて、このような、相手の状況に応じた心配りは、皆さんも、一人一人の心がけて実行できます。学校で、学年で、クラスで、委員会や係活動で、部活動で、そして、皆さんの家でも、相手の状況に思いを馳せ、心を配る言動を取ることが出来ます。皆さんの周りに、困っている人はいませんか。悲しい思いをしている人はいませんか。寂しい思いをしている人はいませんか。そんな人がいたら、あなたは何を伝えることが出来ますか。どんな行動が取れますか。お家でも、ご家族が忙しくしていたら、お手伝いや感謝の言葉を伝える等、心配りができると思います。今年を振り返り、今の自分自身や周囲の状況を見つめ直し、心を配れる自分をめざして、よいお正月をお迎えください。そして、一月九日には、また元気に会いましょう。

## 「二学期を振り返って」

一学年代表 長尾 嘉成

二学期を振り返ってみると、文化祭や合唱祭など様々な行事がありました。その中で、自分は「人のために動く大切さ」を学びました。

僕は中学校に入学してルーム長になりました。ルーム長は、クラスの先頭に立ってまとめなければいけません。しかし、上手にクラスをまとめることが出来ませんでした。文化祭では、縦割りの活動を通して、二年生や三年生の先輩達が上手にクラスをまとめている、見習いたいと思いましたが、先輩達は一人一人に的確な指



示を出したり、周りを見ながら行動していたからです。僕は活動に見通しをもって行動していなかったり、先生に言われてから行動してしまったり、「このくらいいいや」など、自分に甘くなることがありました。だから、「自分から動く」ということを大切にしながら生活しました。

しかし、考えていても、どのように動けばいいのかわからず、悩むこともありました。そこで、授業や給食、清掃など自分から動くことを大切にしようと決めました。授業では、発言を意識して取り組んだり、清掃は気持ちを入れてぞうきんがけをしたり、給食では、自分から手伝ったり、呼びかけを大きくしました。そのような行動をするうちに、周りの人も動いてくれるようになり、うれしかったです。人に何かをすることは、緊張し、勇気が必要だったりすると思います。しかし、自分が行動した分、周りの人と同じことをしてくれることが分かりました。

## 「二学期の反省と課題」

一学年代表 折井 日向子

三学期は、一学年が新入生を迎える立場になります。新入生の見本になれるように、日々の生活を見返していきたいです。

私がこの二学期中に頑張ったことは「団結する」ことです。二学期には白鈴祭や体育祭、合唱祭など仲間と協力する機会がたくさんありました。そこで協力をすることで一つ一つの行事を思い出深いものにし、仲間との絆を今までより強くすることができたから、私はこの二学期は「団結」を頑張れたな、と思います。そして、二学期の反省を基に、三学期の自分自身の目標を二つ決めました。一つ目は、「積極性」です。私は一学期、二学期と発言やリアクションが少なく、あまり授業の評価がよくなか

